

「令和の日本型学校教育」とは

教育長 多田 英史



「観」となってしまう。

「ゆとり教育」では、「総合的な学習の時間」が導入され、体験活動や問題解決学習を重視し、横断的に学習する教育が始まった。「詰め込み教育」と対極にあり、内容削減が誇張され、その後学力低下への不安をおった。

元号が「令和」になって四年目。新型コロナウイルス、ロシアによるウクライナ侵攻など歴史的な出来事も重なり、平成が遠くを感じる。

「新しい学力観」「ゆとり教育」「生きる力」「言語活動」「アクティブラーニング」は、平成の教育改革でのキーワードである。

「新しい学力観」では生活科が始まり、「指導ではない、支援・援助の教育」「指導案ではなく、支援案」など、大きな方向転換となった。平成元年には新しくても、令和になると「古い学力

そして今、「令和の日本型教育」。答申では、これまでの日本型学校教育の成果についても「学習指導、生徒指導を通して、子どもたちの知・徳・体を一体で育む」と評価している。しかしながら、急激に変化する社会の課題に対応するには限界があることも事実である。

「令和の日本型学校教育」とは、これまで積み重ねてきた我が国の学校教育のよさを継承発展するものと考えられる。新しいものが登場すると従前のものを否定しがちな傾向を止めなければ

ならない。

答申では、「『二項対立』の陥穽に陥らない」と強調されている。教育改革のたびにキーワードに飛びついただけの実践にとどまり、改革の理念の実現に至らなかった過去を反省する必要がある。「指導」か「支援」か、「ゆとり」か「詰め込み」か、「デジタル」か「アナログ」か、の議論ではない。それぞれのよさを

組み合わせ、生かして、いかに実践レベルに落とし込むかである。「AかBか」ではなく「AもBも」の発想である。
「令和の日本型学校教育」においては、これまで蓄積した教育方法を継承しながら、「新たなものを大胆に再構成する柔軟な思考」へと転換していく必要がある。

こずかた写真館④

初任者研修

市の初任者研修を実施しました。研修の後半、3つのグループに分かれて、盛岡城跡公園、もりおか歴史文化館、盛岡てがみ館をそれぞれ散策・見学しました。学校外での研修も、初任の先生方には貴重な学びの場となったと思います。

